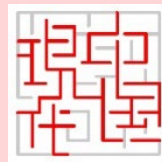


合評会「中国共産党大解剖」



中国共産党史研究の最新著作5冊を手がかりに、世界最強政党の来し方行く末をどう見るか、著者5人を交えて議論します。

日時：2025年9月27日（土）

10:00～17:30（昼休み有）

場所：京都大学人文科学研究所本館4階大会議室

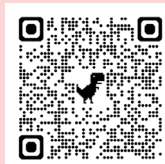
対面・オンライン開催、共に参加申込み必要

- ・ 江田憲治『中国革命論における民主主義と社会主義：陳独秀、瞿秋白、毛沢東を中心に』
- ・ 三品英憲『中国革命の方法——共産党はいかにして権力を樹立したか』
- ・ 周俊『中国共産党の神経系——情報システムの起源・構造・機能』
- ・ 高橋伸夫『構想なき革命：毛沢東と文化大革命の起源』
- ・ 鈴木隆『習近平研究——支配体制と指導者の実像』



問い合わせ先：075-753-7091 e-mail: genchu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

参加申込み：会場参加、オンライン参加ともに、以下のURLか右のQRコード参照
<https://forms.gle/2ibrNUiDamc6muDG7>



彼らはどこから来たのか 彼らは何者か そして彼らはどこへ行くのか

【ご案内】 昨年から今年にかけ、中国共産党とその歴史に関する優れた著作が相次いで出版されました。誕生期の党の姿とその成長を「民主」の消長で描く江田著、共産党自身が語る勝利の要因と現実のギャップを指摘した三品著、「情報」を切り口に秘密主義の奥義に迫る周著、党が半ば解体して機能不全を起こした文革への道を解説した高橋著、そして現代の毛沢東とも称される最高指導者の習近平の権力への歩みをたどった鈴木著、いずれも中国共産党研究の最先端の水準を示す好著です。今やこの巨大政党を抜きにしては、東アジアはもちろん、日本の将来も語ることはできません。1億に迫る数の党員を擁し、中国14億の民に君臨する中国共産党、結党100年を経ながらまだまだ謎の多い巨大政党は、どのようにして今日の姿になり、これからどうなっていくのでしょうか。そしてその領袖・習近平総書記はどのような人物なのでしょう。会では、5冊の最新研究を切り口に、専門家の論評を交えて、この巨大政党を大解剖し、徹底討論します。5冊のうち、どれか一冊でも読んで参加いただければ、討論と解剖の理解はより一層深まることでしょう。多くの方の参加をお待ちしています。

登壇者(評者) [登壇順]:

石川禎浩(京都大学教授), 江田憲治(京大名誉教授), 三品英憲(和歌山大学教授)
阿南友亮(東北大学教授), 鈴木隆(大東文化大学教授), 周俊(神戸大学講師)
高橋伸夫(慶應大学名誉教授), 谷川真一(神戸大学教授), 丸田孝志(広島大学教授)
大澤武彦(国立公文書館公文書専門官) 下線付きは著者

[スケジュール] (変更の可能性があります)

10:00 開会挨拶・趣旨説明 石川禎浩
10:05-11:10 江田著『中国革命論における民主主義と社会主義』に対して
三品英憲、阿南友亮
11:10-12:15 三品著『中国革命の方法』に対して 鈴木隆、阿南友亮、石川禎浩
12:15-13:30 昼休み 75分
13:30-14:45 周著『中国共産党の神経系』に対して 高橋伸夫、谷川真一
14:45-15:35 高橋著『構想なき革命』に対して 大澤武彦、周俊、谷川真一
15:35-15:50 小休止 15分
15:50-17:05 鈴木著『習近平研究』に対して 江田憲治、丸田孝志、大澤武彦
17:05-17:30 総合討論

主催: 京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センター